



あ ゆ み

学校だより 6月号

親子で食事 親子で会話
親子で読書



校長 鈴木 学 平成25年6月25日

4年生・初めての宿泊にドキドキ 大きく成長した2日間

今月の5日～6日、大平少年自然の家で4年生の宿泊学習がありました。

入学以来初めての宿泊ですので、いろいろと不安もあったと思いますが、帰りのバスの中で、「行く前は心配だったけれど、とても楽しかった」と、つぶやいた子がいました。

この言葉どおり、様々な面で子どもたちの成長が実感できる2日間となりました。日程は、次のとおりでした。

【1日目】 大中寺見学→自然の家までのハイキング→杉板焼き→ナイトハイキング

【2日目】 大平山の自然観察

大中寺では、自然の家の先生が話してくださった七不思議の説明に興味津々、しっかりメモもとれました。

ハイキングの時は、疲れた様子の子に励ましの声をかけたり、手を引いてあげたりする姿も見られました。

活動や食事の時などに集合が早かったこと、布団の畳み方が上手だったことなどについても、引率の先生が大いに褒めていました。

もちろん初めての宿泊ですので、失敗もありました。

- ・ハイキングの料理を取り過ぎてしまった。
- ・親が全部用意してくれたので、自分のバッグに何が入っているのかわからない。
- ・お風呂に入るのに何を持って行ったらよいか分からない。(タオルを持たないで入ってしまい、体を拭かないでそのまま出てきてしまう)

といった子がいました。



4年生に限らず、ぜひ、校外学習や宿泊学習の荷物の準備は、親が全部やってあげるのではなく、お子さんと一緒に行ってください。また、家庭以外でのお風呂の入り方についてもマナーを教えていただきたいと思います。

お化けはつらいよ！

ナイトハイキングには、毎年お化けが出ます。子どもたちは、先輩から聞いていて「随神門あたりには、必ず隠れているよ」などと話しています。この期待？に答えなければならぬお化けたちも結構大変です。

- ・山の中の暗い所でじっと待っているのですから、本物のお化けが出そうで怖い。
- ・蚊に刺される。不審者に間違われぬ心配。
- ・適度に怖がって欲しいのですが、あまり怖過ぎて、夜眠れなくなってしまう子がいては大変等々・・・

今回も、死体役のお化けが車にひかれそうになったり、苦心作のお化けをゴミと間違われたりと、応援部隊の先生方によるお化けには、隠れた苦労がありました。

右の写真は、S先生が作ったお化けです。これを木の上から落としたり、怖がってくれた班もありましたが、一人の子から「S先生が、上からゴミを落としたり！」と言われ、落ち込んでいました。



こちらは、なぜか着ぐるみ姿の調理員さん。おやつを届けてくれた優しいお化けです。



挨拶はいつやるか？ 今でしょ！ だれにでも挨拶しよう！！

5月号にも書きましたが、「交通指導員さんや先生にはできるが、学校に来られた方や地域の方にはあまり挨拶ができない」ということが、本校の課題になっています。

そこで、先日の校長講話では、「いつやるか？ 今でしょ！」ですっかり有名になったカリスマ予備校講師の林修さんに登場してもらいました。

子ども達にも人気のある林さんが、「いつやるか？ 今でしょ！ <今すぐできる45の自分改造術>」という本を出されました。

この本の第1章「今すぐやるべき基本の習慣」の最初に書かれているのが、「挨拶は『誰にでも平等に』しよう！」というものでした。林さんは、学生の時に、大御所の大学教授がトイレ掃除のおばさんに対しても丁寧に挨拶しているのを見て、衝撃を受けたそうです。

そして、この項の中で、「よく子どもに『元気に挨拶しよう』と指導するが、それだけでなく『誰にでも平等に』ということが大切だと思う。挨拶をする自分の姿は、相手だけでなく、世間にも見られているということを忘れてはいけない。」と強調されています。

林さんの本の紹介の後に、次の二つの詩を読んでもらいました。

『あいさつ』

「おはよう」というと目がさめる
「いただきます」というとおなかがよく
「いってきます」というと元気になる
「ありがとう」というときもちがいい
「ごめんなさい」というとほっとする
「おやすみなさい」というといいゆめみられる
あいさつってうれしいな

『あなたのあいさつで』

あなたのあいさつでうれしくなる人が、
あなたのあいさつで元気になる人が、
あなたのあいさつで幸せになる人が、
きっとあらわれます

挨拶をすると、自分も相手も元気に、そして、幸せになることができるようですね。

この2つの詩を今年度の校長からの暗唱課題としました。一昨年度の「雨ニモマケズ」や昨年度の「小を積んで大を為す」と比べると、短くて言葉も簡単なので、すぐに全員が合格できると思います。

新人先生の喜び

新採の先生の週プロに、次のような反省が書かれていました。

算数の授業で、「割り算って、なんか難しそうだな」と口にしていただけの子どもたちが、授業の終わりには、「割り算って、簡単なんだね！ おもしろかった！！」と話していました。

自分にとっては、とてもうれしい言葉でした。これからも子どもたちと分かる喜びを共有しながら、このような声がたくさん聞かれる授業づくりに励んでいきたいです。

新採に限らず、「分かった」「おもしろかった」という子どもの声を聞くことは、教師にとって最高の喜びです。

6年生の癒やしの時間は？

昼休みの校庭、低学年の子は、タイヤ跳びや築山でのおにごっこなどをして活動的に遊んでいます。

一方、何人もの6年生が、のんびりとブランコに座っていました。「6年生でもブランコに乗るんだ？」と冷やかすと、「ブランコに乗ると癒やされるんです。」という言葉が返ってきました。

確かに、ブランコをゆったりと漕ぐあののんびりしたリズムは、心を落ち着かせますね。

「低学年の子が来たら、譲りますから・・・。」と言うところが、さすが本校の6年生です。

